

新システム(2014年1月)の対応等について

株式会社証券保管振替機構

<p>■システム基盤の強化</p>	<p>・信頼性・効率性の高いシステムの提供を目的として、機構のシステム構成の見直しを行う。また、利用サービスごとに別回線となっている制度利用者と機構との間の接続回線を集約。</p>
<p>■決済リスクの削減</p>	<p>・金融庁の「金融・資本市場に係る制度整備について」(2010年1月公表)に基づき、貸株取引に係る決済リスク削減のためのスキーム(貸株DVP)を実現。</p>
<p>■国際標準化の推進(ISO20022対応)</p>	<p>・決済照合システム及び振替システムにおいて、国際標準メッセージフォーマットであるISO20022を導入。また、SWIFTNet接続を実現。</p>
<p>■非居住者取引における誤差照合の導入</p>	<p>・非居住者取引の決済照合業務において、欧米やアジアの主要市場において導入されている誤差照合機能を決済照合システムに導入。</p>
<p>■制度利用者の利便性・効率性の向上等</p>	<p>・各小委員会等における制度利用者からの要望の検討を踏まえ、制度利用者の利便性・効率性の向上等に係るシステム改善を実施。</p>

1. システム基盤の強化の主な内容

■ ホストオープン化

- ・ 株主通知システム(株主通知ホスト)についてオープン化を実施。

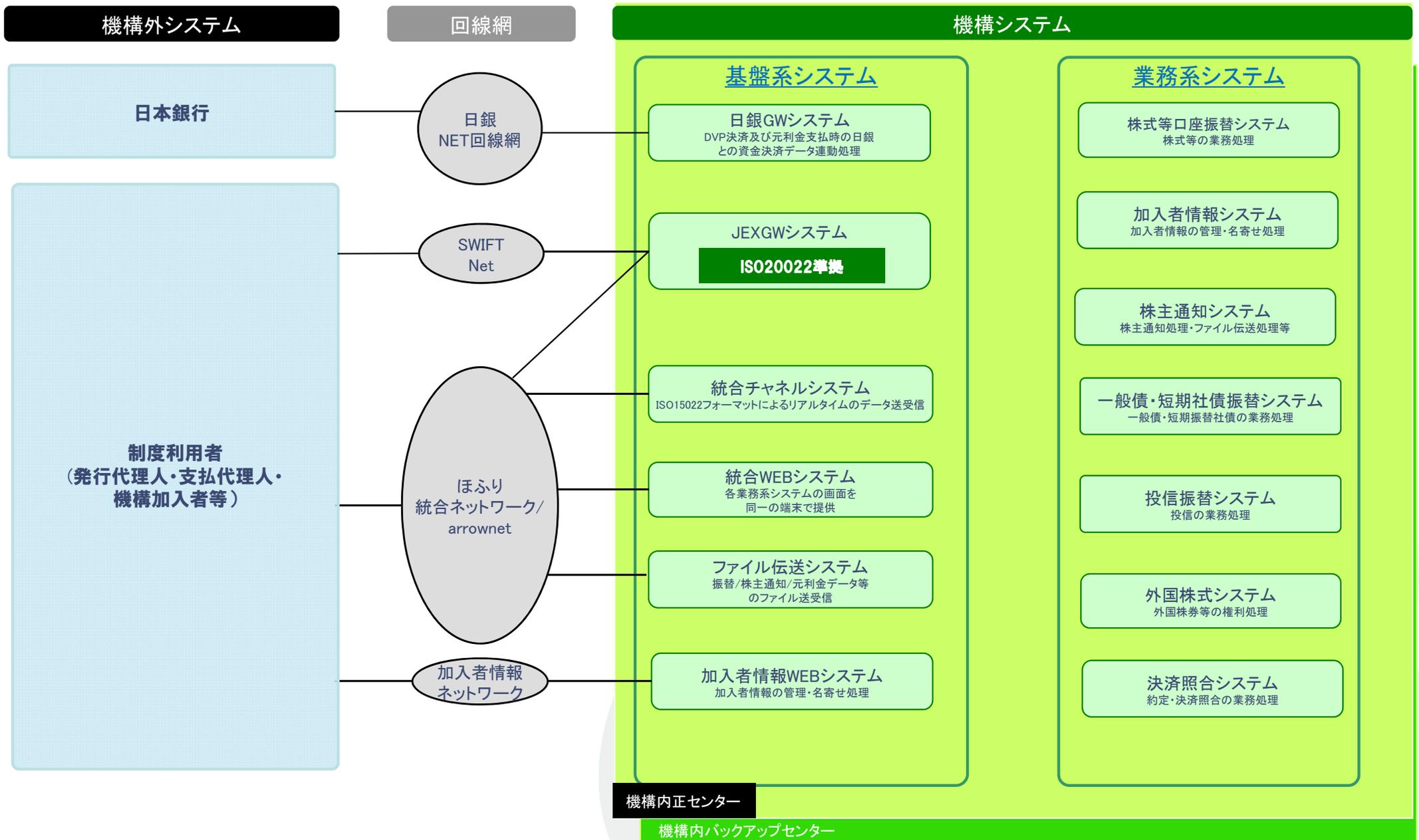
■ 外部接続ネットワークの見直し

- ・ 利用サービスごとに用いていた外部接続ネットワークを回線網に集約。

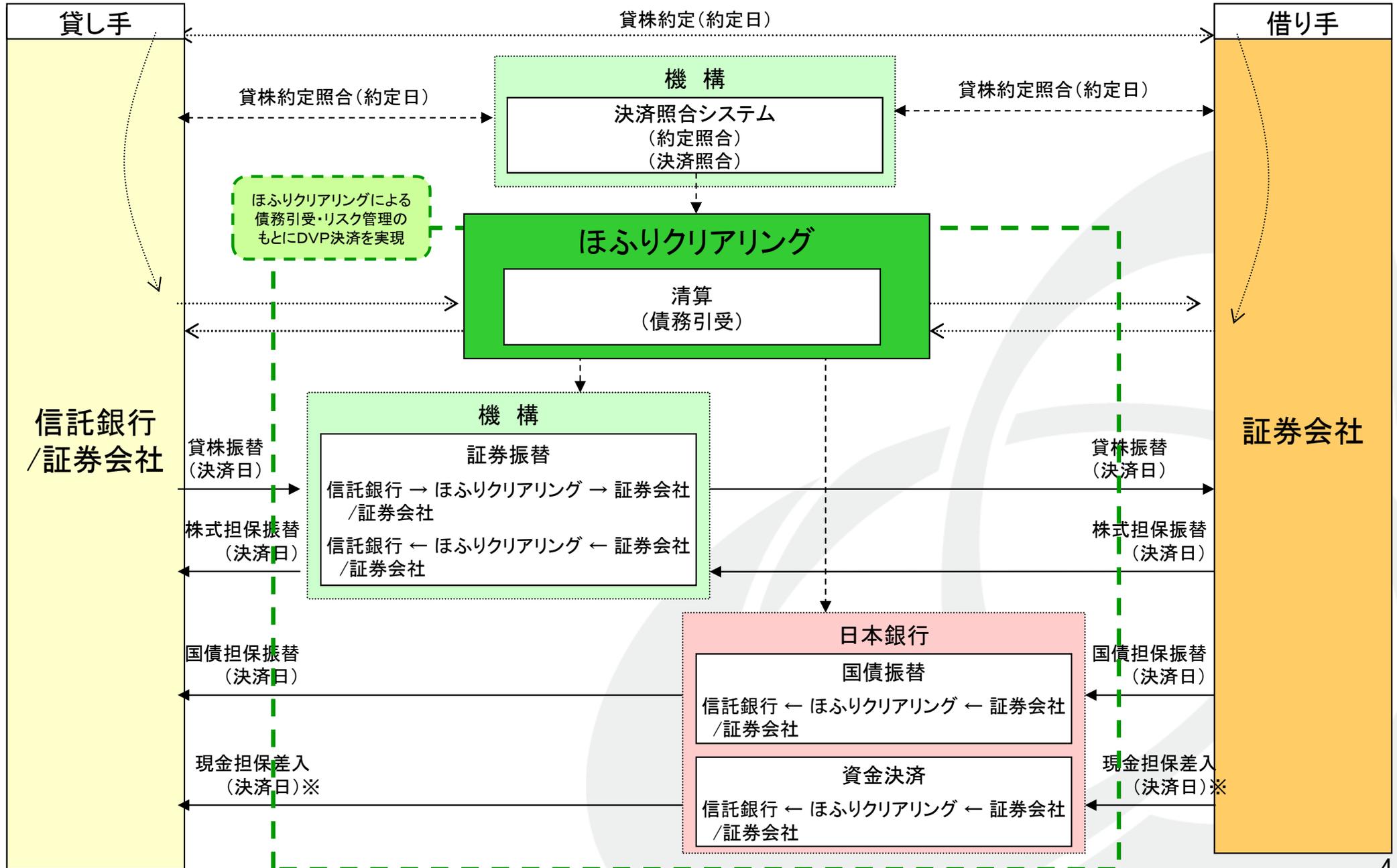
■ 老朽化対応(耐用期限対応)

- ・ システム機器及びストレージをリプレースするとともに業務の効率化を考えたシステム構成の見直しを実施。

2. 新システムの概念図



3. 決済リスクの削減(貸株DVP)の仕組み



※ 一般振替DVPの資金決済と合算して行う。なお、現金担保金額は金額調整データ機能により調整が可能。

4. 国際標準化の推進(ISO20022対応)

■ JEXGWシステムの構築及び統合チャネルシステムの廃止

- ISO20022メッセージの授受を行うためのオンラインゲートウェイシステムである「JEXGWシステム」を新たに構築し、従前のシステムから利用していたオンラインリアルタイム方式の統合チャネルシステムについては、JEXGWシステムとの並行稼働期間(2014年1月から2018年末までの5年間)を経て、2019年初に廃止。

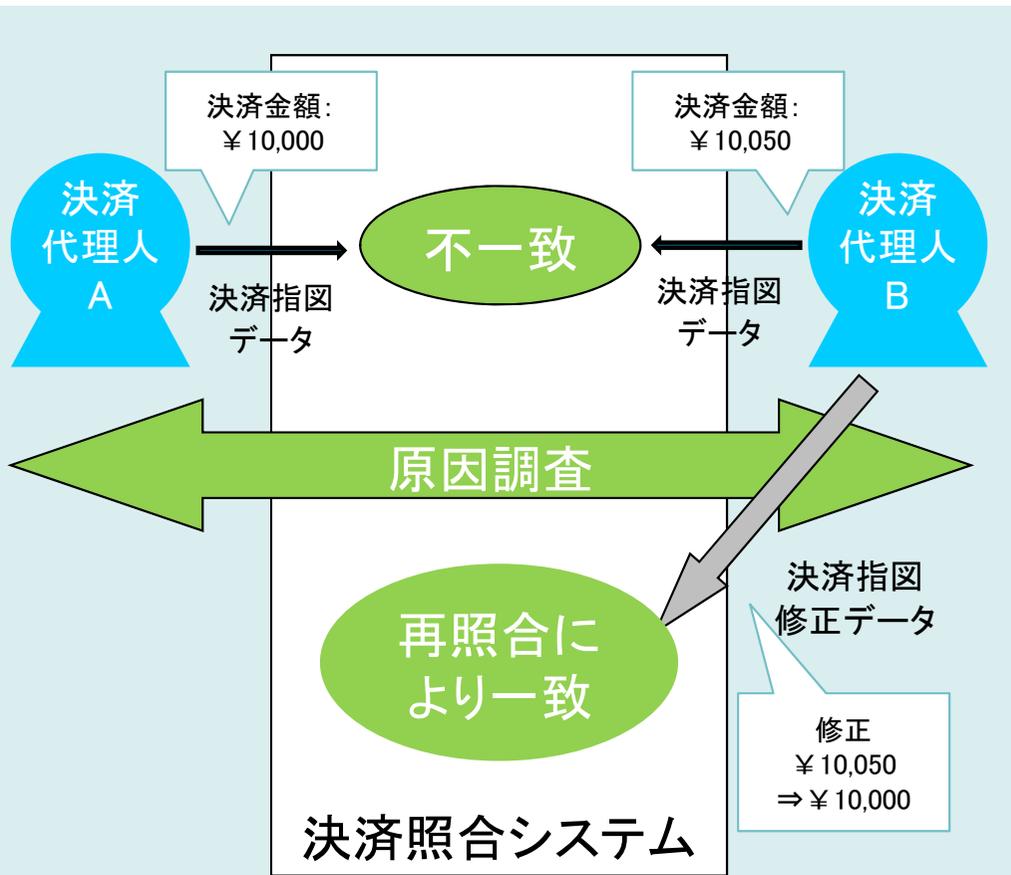
■ 接続ネットワーク

- 制度利用者は、ほふり統合ネットワーク、arrownet又はSWIFTNetを経由し、JEXGWシステムに接続。

5. 非居住者取引における誤差照合機能の導入

- ◆ 非居住者取引の決済を行う両当事者の決済指図データにおいて、決済金額の不一致が発生した場合に、差額が100円以下であれば、決済照合が一致したとみなす。利用者は照合不一致の原因調査や決済指図データの修正及び再照合を行う必要がなくなり、決済照合業務の効率化につながる。

【誤差照合機能導入前(2013年12月以前)】



【誤差照合機能導入後(2014年1月以後)】

